

議 事 概 要 書

会議名称	令和2年度 第4回社会教育委員会議（定例会）
日 時	令和3年3月18日（木）午後1時25分から2時56分まで
場 所	会議：伊那市役所 501会議室
出席者	伊那市社会教育委員：9名（欠席：1名） 事務局：教育長、教育次長、生涯学習課長、係長、担当
議 題	下記のとおり
議 事 内 容	
<p>1 開会（教育次長）</p> <p>2 あいさつ</p> <p>教育長：タカトオコヒガンザクラの様子が気になり始め、少し明るい気持ちになるが、新型コロナウイルス感染症陽性者がまた増えている。コロナのため、この1年間、公民館や各施設の講座、展示など、大きな影響を受けた。来年度の教育委員会運営方針として、「コロナ後を見据えて」という言葉を挙げた。これはどういうことかということ、「1 本質化」「2 日常化」という2つの項目を入れている。この1年間、学びにかかわること、子どもの学び、それにかかわること、ありよう、どういうことかということ等を問うてきた。これを大事にしながらこの1年間いくこととしたい。学校で陽性反応があった児童があったが広がらずに済んだ。日常的に地味な、丁寧な対策を子どもたちがしていた。こうした日常なこと、本質的なことを胸に置きながら、今までの自分たちのあり方、これからのありようを考えることが大事かと思う。</p> <p>社会教育委員の皆様は、この会を大切にいただき、資料を事前に御覧いただき、積み上げていただいている。この取組に感謝し、これからのありようを一緒に考え、教えていただければありがたい。</p> <p>会長： 昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になった春の高校伊那高校駅伝が、規模の縮小はあるが開催され、ランナーの力走が見られるのはうれしい限りである。1年余りコロナと向き合ってきたが、収束が見通せない状況にあり、委員全員参加の研修などが無く残念であった。1日も早い収束を願う。第2次生涯学習基本構想については、生涯学習基本構想審議会で3回にわたって審議いただき、また、社会教育委員からも意見をいただいて策定された。審議会会長とともに2月24日に市長に答申させていただき、4月からスタートする運びとなった。市民一人一人がそれぞれの目的やニーズに応じて、気軽にいきいきと生涯を通じて学活動を行うことができる環境の構築を目指すものである。公民館の講座は中心的な存在であり、市民のニーズの把握に努め、いきいきとした学びの場の提供を期待する。</p> <p>3 報告事項（進行：会長）</p> <p>（1）委員の退任について（課長から説明）</p> <p>（2）第2次伊那市生涯学習基本構想について（資料に沿って係長から説明）</p> <p>会長：（生涯学習基本構想審議会副会長として）3回の審議会では、各分野から選出された委員</p>	

と協議を重ねてきた。審議会では、社会情勢の変化を踏まえ、言い回しなども検討した。また、基本理念にもあるが「誰もが」という点で、市民アンケートの結果からも読み取れるが、青少年期から幅広い年代までの学習活動の推進について意見が出された。人生100年時代と言われる中で、誰もが、どこでも、いつまでも生きがいを持って学習に取り組める環境づくりを期待する。また、IT社会の実現、多様性を認める社会の実現など、市の施策に基づいた学習機会の実現についても盛り込んでいるとともに、コロナなど社会的影響の大きい感染症対策等新しい項目も入れ込んだ。公民館講座なども新しい生活様式に配慮しているところだが、学びを止めないためにも生涯学習のできる環境、場所や学習内容の提供がなされることを願っている。

<質疑なし>

4 協議事項

(1) 令和2年度伊那市生涯学習基本構想の進行管理について

(資料に沿って係長から説明)

<質疑・意見等なし>

(2) 成人式のあり方について

(資料に沿って係長・課長から説明)

(3) 社会教育委員関連事業について(令和2年度報告及び令和3年度予定)

(資料に沿って係長から説明)

<質疑・意見等なし>

(4) イベント等参加報告、地域の話(委員から)

○長谷公民館人権同和教育講座について

○「シルク時空をこえて」映画試写会について それぞれ委員から報告をいただく

(5) その他

令和2年度社会教育委員活動を振り返って(委員から一言)

委員：教員をやっていたころ、恩師から「これからは生涯学習の時代だぞ」と言われた。意味が分からず「授業が一番」と思っていた。今思えば、先を見ての言葉だったんだと思う。社会教育委員を受け、いいところ10選視察などいろいろなかわり、基本構想、歴史、文化など勉強になった1年だった。

委員：コロナの影響でイベント等への参加もままならず、物足りない1年であった。地域の子どもたちに何事もなく良かったと思う。行事が少なくて寂しい1年であったので、来年は少しでも開催できるようになるといい。

委員：緊急事態宣言が明けて少し動き出したときに、手良公民館の人権同和教育講座に出たが、参加できることがなんていいことなんだと思った。コロナが収束したときに、学習することは喜びなんだ、いいことなんだと思えるようになるよ。

委員：寂しい1年だった。社協のボランティアに参加するようになり、家でできること、タオルで雑巾づくりをし、新聞紙でゴミ袋をつくり、それぞれ東春近小学校や施設へお届けした。とても喜んでもらえ、こんな時でも何かできるんだと感じた。

委員：生涯学習基本構想の事業計画作成に当たっては、コロナ禍で苦慮されたと思う。4月の事業計画を組む段階から大変だったと思う。国、県、市の感染対策の指針に照らし合わせてやむなく中止、あるいは縮小と決定した事業もあり、理解できる。実施された事業も、感染対策を踏まえて実施することの難しさ、怖さ、眠れない夜もあったと思う。令和2年度は計画どおりに進まなくても仕方ないし、相対比較も余り意味をなさない状況であったと思う。第2次生涯学習基本構想の策定について、4月から3回の推進委員会、審議会を経て、平時の職務を行いながら策定されたことに少し驚いている。私的にはこのレベルの策定にはコンサルティングに入札依頼して策定するものと思っていた。市職員皆様の資質に感謝する。新たな理念の下、みんなで頑張りましょう。

委員：矢澤章一さんが亡くなられた。いいとこ10選で大変お世話になった。いっぱいいろいろなところへ行ってこいと背中を押してもらった。まだまだ教えてもらいたいことがたくさんあった。燈籠祭も、石仏巡りも、矢澤さんのおかげだった。

委員：コロナで多くのイベントが中止になったが、イベント報告の提出があるため、できるだけ参加した。参加したイベントはできるだけ報告を書き、21件提出した。残念だったのは、小中学校の入学式、卒業式に参加できなかったこと、寂しいことである。長谷は子どもが少ないので、例外で参加してもよいと思ったが、特別という訳にもいかないと思う。来年は是非参加したい。

委員：いろいろな行事に参加できなかった。その中で、高遠小学校では授業前に校庭マラソンを10年以上やっており、その手伝いをさせていただいた。見守りというよりは鬼ごっこの鬼役で、子どもすばしっこさに驚くこともあった。冬になれば毎年インフルエンザが流行するが、今年はそういう声は聞かず、そういう意味ではよかったと思う。

委員：公民館の夏休みおいで塾の支援をしていたが今年は中止になった。その中で小学校から依頼を受けて、入学時の給食支援を行った。4月に3日登校してすぐ休校になったので、その間の支援がフイになったが、再開してまた支援を行った。給食を時間内に食べ終えるのには半年かかる。いい経験だった。また、学習支援にも携わり、こちらもいい経験だった。少しでも自分がかかわれることがあれば、かかわっていきたい。

5 その他

- ・令和3年度第1回会議の日程について（4月23日（金）予定）

6 閉会（副会長）